台風と港の防災

松　平　康　男

船は暴風そのもので遭難したり，障害をこうむることは割に少い．ほとんどが風によって起る浪にたたかれて折れたり，装備を流失したりする．また大洋航行中は天気図を作り，気象台の放送する情報についての船長の判断さえよければ，船は陸の施設と異り自力で移動できるので，よほどの気象急変でない限り，台風などはあらかじめさけ得られる．

陸の人は船は港に碇泊したり，埠頭につないでおけば台風が来しゆうしても安全だと考える向もあるが，決してそうでない．小型船は別として，大型船などになると港内に逃げ込むことが，むしろ危険をまねく．広いと思う港でも台風近接時には小型の退避船で混雑してくる．台風のしゆう来があると，碇がひけたり，船がふれ廻り，他船とぶつっかることや，あるいは索鎖が切れた船でもできると，それが他船に流れあたり，とんだ災害を自他ともにこうむる場合が多い．また岸壁，埠頭につないだ船でも，岸壁とぶつっかり合っておる間に船腹その他船体に障害をうけるし，高潮でも伴った場合には船が浮きあがり，繋索が切れて岸壁にのし揚り，大きな障害をうける．台風ジェーンの場合の大阪港での被害がそのよい例である．この際でも港に碇泊して天気図を作り，台風のしゆう来を予知して，船員を陸にあげず，配備につかせ，船足も十分にし，何時でも港外に出られるようにした船は皆無事であった．

台風がしゆう来するとの気象報をうけたら，いち早く港内はもちろん，埠頭につないだ大型船は港外の広い海区に退避した方がよい．広い所で碇置しておれば，船首は風に向うので，風がつのってもエンヂンをかけて微速を出せば，安全にしのげ，高潮なんかも心配無用となる．

また一般に港で大型船が自力で行動することは危険を伴うので，曳船（タグボート）の助力によって埠頭についたりはなしたりするが，この曳船は 17 m/s 位の風速になると，自船の行動にも危険となるので，まして強い風圧をうけている大型船を岸壁からひきはなしたり，港外にひき出すことなど出来がたく，遭難の危険もある．したがって，大型船の出入する港をひかえた気象官署では 17 m/s 位の風速に何時頃なるかを予測し，その数時間前に警告を出さねば船を安全に退避させることができず，気象官署の役目もはたせない．

船に乗った体験のない者は港と船の関係，あるいは曳船と風速の問題など気付かずにいる者が多い．私が常々予報者に申上げている海上生活の体験のない予報者に適切な海上気象報が出しかねるというのも，この辺の事情を知っていないからと云うことにある．また気象知識の低い船長や海上生活の浅い船長は台風がしゆう来するおそれありと注意しても，何の退避準備もしなかったり，また荷役でもしていると，それを中止することが会社の損失になったり，自分のウエイトが低く見られることなどを恐れ，小利的な考え方から，気象報に間違いが多いといったことを気休めの理由として，適当な処置をしないために大きな損害をこうむるのである．

荷役を中止したり，曳船を雇って港外に出ることは，もし台風がそ水た場合，たしかに金銭の損失にはなるが，退避しないで遭難した場合の損害を比較したら問題にならぬ小額である．

応々気象台の予報，警報を無視されて港で遭難する船があり，気象台としても防災の建前上面白からぬことなので，神戸では気象台の指示を民主的に港長や船長や港湾関係業者に徹底させ，それを実施して海難を防ぐため，既設の神戸海難防止会の中に 3 年位前から，台風防止班なるものを結成した．メンバーは会長が年々指命するが，そのメンバーは造船，倉庫業，荷役業，艀舟業，船舶業界等各港湾関係団体においてウエイトある代表者である．気象台が台風しゆう来のおそれありと見たら，その旨を港長に通知する．港長はただちに防止班のメンバーに連絡し，時刻を定めて港長室に集合する．この集合には気象台からは職員 3 名が受信器を持って出張し，班員の前で気象報を受信したり，天気図を作り，当台よりの指示も織りまぜて，台風の状況につき説明し，意見をも述べ，かつメンバーの相談にも答える．各班員は適宜業務面から判断し，危険と見れば自己の団体に指示を下す．勿論港長もその場合官的な指示も発表するのである．気象台側も十分班員の相談に応じ検討もしてあげるので，この官民の防止班の活動は民主的に且つスムーズに運営され，海難防止に十二分の効果をあげている．なお当台から発表する警報，情報も正しく海関係の業者間に流布するのである．また港長の下にある数個の電話は海関係者の台風相談にあてられることも徹底されているので，当台の電話に海関係の業者からの情報問い合せも少くなり，当台としては労力も省ける．港長の指示も民主的に完全に実施されるので，責務も軽くなることは勿論のことである．時化て来始めて，退避に逡巡している船長がいても，一隻が退避行動をはじめると次々各船とも自発的に退避するのである．本年の 5 号台風でも去年の 13 号台風の場合もこのようにして神戸の港では海難を完全に防ぎ得た．是非大型船の出入する港をもった気象官署ではこのような防止班を結成され，海難防止に効果をあげ，気象官署の任務を完遂してほしい．

（神戸海洋気象台長）